



# IIZUKA Community ARENA

## 3つの広場に開かれた、にぎわいあるまちづくりをリードする市民の居場所「コミュニティアリーナ」を創出します。

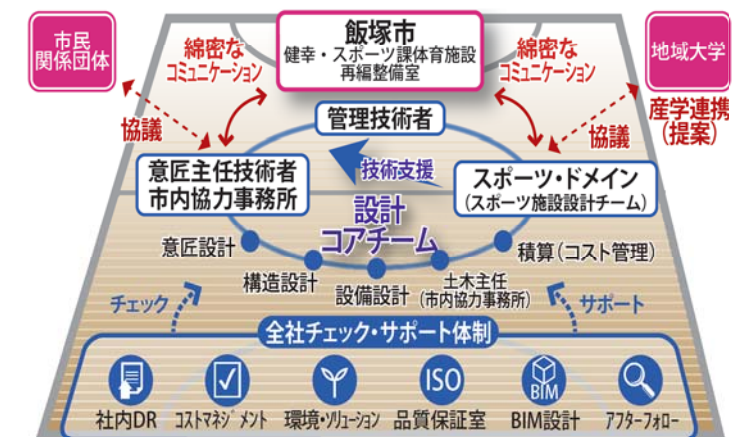
- 01 多目的な利用を可能とするフレキシブル・アリーナ**  
高度な機能性と拡張性のある施設配置により、利用者や運営者のニーズに合わせて成長し続け、フレキシブルに運用可能な施設にすることで、日常的な賑わいを創出し、まちを活性化します。
- 02 市民運動公園全体の利便性を高めるホスピタリティ・アリーナ**  
建物と運動公園全体が機能的に連携し、日常利用から様々なイベント、万が一の災害時まで、高度な利便性を保つホスピタリティ溢れる計画とし、住民の居場所となるサードプレイスを創出します。
- 03 市民の安全な暮らしを支える防災拠点セーフティ・アリーナ**  
日常的に市民が憩う施設とし、万が一の災害時は速やかに防災モードへ移行可能な計画とすることで、誰もが安心して利活用できる地域の防災拠点を実現します。
- 04 飯塚市の気候風土と調和し、長寿命で維持管理容易なエコ・アリーナ**  
合理的・経済的な工法や、飯塚市の気候風土や施設用途に合致した高効率な設備システムの採用、長寿命で維持管理にも配慮することで、環境活動を先導するエコ・アリーナを実現します。
- 05 すべての市民が主役になるエンターテインメント・アリーナ**  
細部までこだわったユニバーサルデザインなどにより、障がいの有無や年齢・性別に関係なく、すべての市民が楽しくスポーツを「する」「観る」「魅せる」ことが可能となるエンターテインメント・アリーナを実現します。

施設全体鳥瞰イメージ

### 01. 取組体制とチームの特徴

#### ■ スポーツ施設設計プロフェッショナルチームによる全社的な取組体制

国内トップの体育館設計実績をもつ管理技術者が中心になり、社が擁するスポーツ施設設計のスペシャリストチーム『スポーツ・ドメイン』が全面的に技術支援を行う、全社的な取組体制とします。



【取組体制】

#### ■ 管理運営に精通した設計スタッフ

多くのスポーツ施設PFI事業実績により、大会運用やメディア・仮設施設設営に精通した設計スタッフが、維持管理や運営に関する生きた情報やノウハウを本設計に反映し、日常利用から大規模大会まで、フレキシブルで無駄なく利用できる施設整備を提案します。

#### ■ 環境負荷・LCC削減の専門技術サポート

環境負荷低減を専門的に研究する環境ソリューション部のサポートの下、飯塚市の気候に適した質の高い環境建築を提案します。

#### ■ コストマネジメント部によるLCC削減

近年の物価情報データによるコスト検証を行うコストマネジメント部のサポートのもと、LCC(ライフサイクルコスト)の削減を図ります。

### 02. 動員計画

#### ■ 実績豊富な有資格者で構成する設計コアチーム

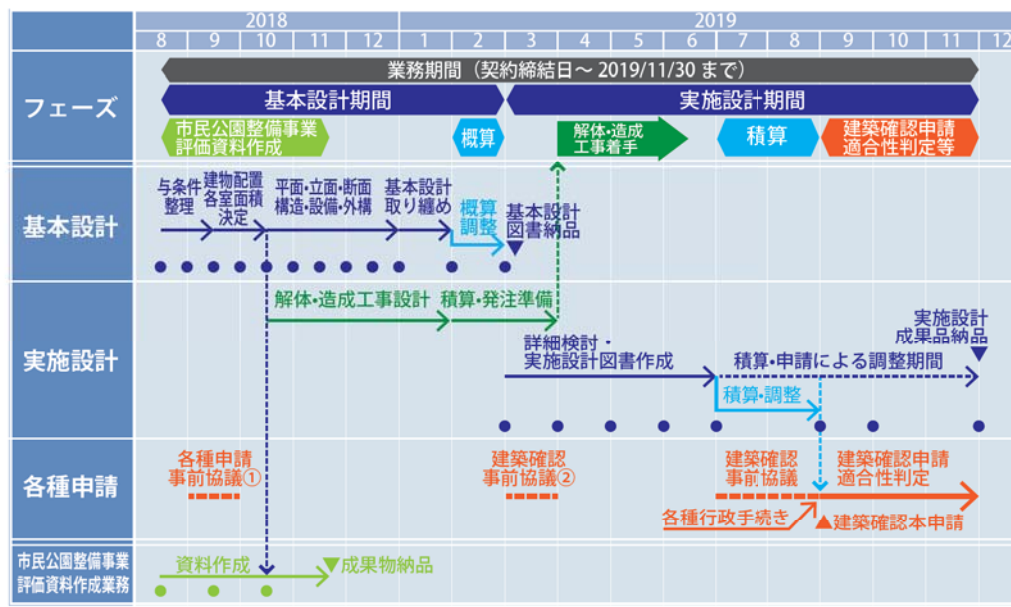
意匠主任技術者・各担当者には、経験・実績とも豊富な一級建築士、構造設計一級建築士、設備設計一級建築士、技術士を配置します。

#### ■ 市民と共に創り上げるプロセス重視の設計

市民の代表者や各利用者団体に設計プロセスへの積極的な参加を促し、運用開始後も市民が主役となる総合体育館を目指します。基本計画をベースに、コミュニケーションを重視した対話型の設計を行います。

#### ■ 市内の協力事務所との連携によるきめ細やかな設計

数千年もの太古から文化交流の接点であるここ飯塚の地で「不弥国」の如く活躍する市内協力事務所と連携することで、地の利を生かしたきめ細かい設計と更なる業務効率化を図ります。



※工程は開発行為には該当しないものとして作成 ●●：市との会議体を示す（別途必要に応じて適時打ち合わせを行う）

### 03. 工程計画

#### ■ 市民、利用団体、職員等関係者との円滑な合意形成

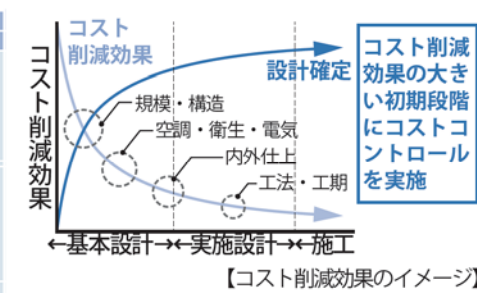
基本設計の初期段階に、各利用者団体および担当部署へのヒアリングや調査を集中的に実施し、与条件や仕様について合意形成を図ります。

#### ■ 未済項目ゼロ化による工程遵守

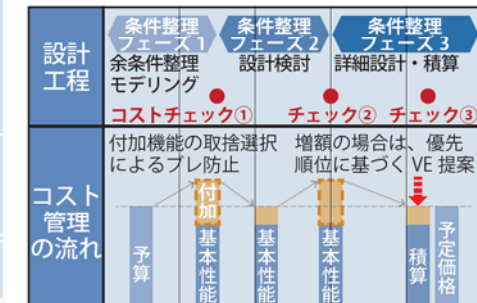
「いつ、誰が、何を決めるか」を記載した「モノ決めリスト」(ロードマップ)を活用し、検討事項の把握と確実なスケジュール管理を行います。

#### ■ 適切な建物グレード設定と検証によるコスト管理

基本設計初期段階において最新事例の工事費調査を行い、予算に対して適切なコストとなるよう、建物のグレードを設定した後、段階的にコストの検証を行います。



【コスト削減効果のイメージ】



【コストコントロールのイメージ】

### 04. 設計上特に配慮する事項

#### ■ 地域に開かれた、地域活性化スポーツ交流拠点づくり

新体育館は、公園に集う感覚で、子どもから高齢者、障がい者まで、誰もが気軽に利用できる憩いの場として整備します。

#### ■ 市民を温かく受け入れる施設の顔づくり

アリーナの前面には、全ての市民を温かく迎え入れる施設のシンボルとして、大きな庇を設け、一目でメインエントランスが分かる計画とします。

■ これからのスポーツ施設のあり方を見据えたマネジメント  
施設規模、機能、防災拠点づくり、LCC削減、省エネなどの基本的要求条件を踏まえたうえで、豊富な実績により培ったノウハウを活かし、先進的なスポーツ施設の在り方を見据えた提案を行い、完成度の高い施設を実現します。

#### ■ 「可能性・拡張性」を持った成長する施設の実現

外構まで一体となった効率的な配置計画により、利用者や運営者のニーズに合わせ将来展開が容易で、成長し付加価値を高める「可能性・拡張性」をもった成長(グロー)する施設を実現します。

#### ■ 共生ホストタウン飯塚にふさわしい施設づくり

段差のない床、わかりやすい空間構成、視認性の高いサイン計画、安全機能的な内装仕上げ、更衣室や休憩スペースでの適切なベンチの設置など、ユニバーサルデザインを徹底し、国際競技大会基準や障害者競技大会基準に適合したおもてなしの施設づくりを行います。

#### ■ 『稼げる公共施設』を意識した設計

プロの試合誘致はもとより、様々なイベントの開催が可能なフレキシブルでユニバーサルな施設構成と維持管理費や運営費が分からないシンプルな計画で、稼働率と収益性が高い『稼げる公共施設』として設計します。

#### ■ 適正なコストバランスによる高品質な設計

コストをかけるべき所と抑えるべき所を、実績データや比較検討により判断し、メリハリを効かせた設計とすることで、トータルバランスのよい、経済的な施設づくりを実現します。



# 屋外との連携性や将来展開、拡張可能な余白を十分に考慮したフレキシブルアリーナ

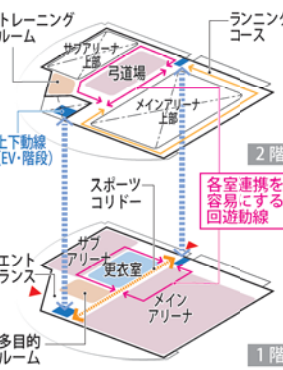
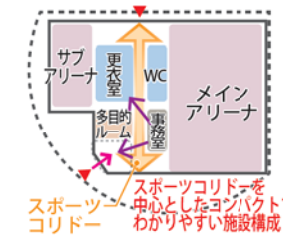
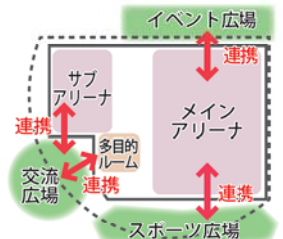


アリーナ正面イメージ

## 01. 将来拡張にも対応できる使いやすい施設計画

### ■ 屋内外を連携利用でき、将来拡張可能な配置計画

敷地中央に建物を配置することで、メインアリーナ、サブアリーナ、多目的ルームと連携利用可能な広場空間を複数確保し、スポーツに限らない様々なイベントに幅広く活用できる計画とします。また各広場は、将来的なニーズに合わせ、様々な機能付加・施設拡張を行う際の増築スペースとして活用することができます。



### ■ 直感的に利用できる、明快な施設構成

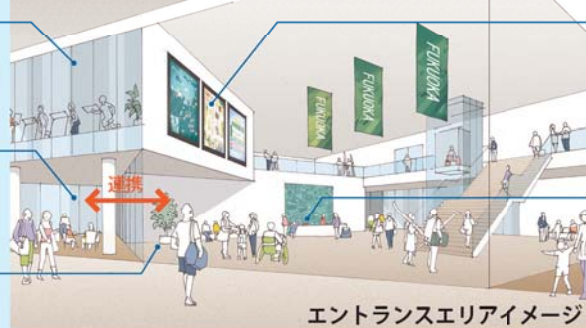
南北を繋ぐ主動線「スポーツコリドー」を中心として、メインアリーナとサブアリーナを東西に配置したコンパクトな構成とします。「スポーツコリドー」に面して、事務室・更衣室・WCを設けることで、誰でも迷うことなく直感的に目的地が分かり、そして管理も容易な計画とします。

### ■ 各室連携が容易な諸室配置

1階には、メインアリーナ、サブアリーナ、多目的ルームをつなぐ回遊動線を、2階には、観客席、ランニングコース、弓道場、スポーツラウンジをつなぐ回遊動線を設けることで、互いに連携しやすい計画とします。

### 眺めの良いトレーニングルーム

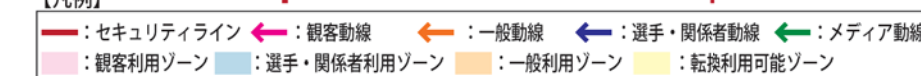
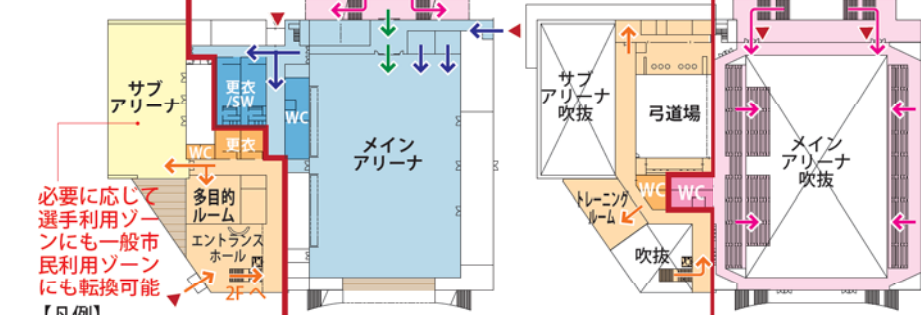
活動の様子が溢れだす開放的なトレーニングルーム



エントランスエアイメージ

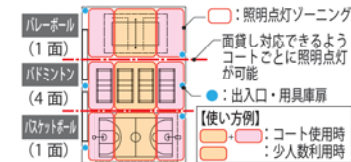
## 02. 様々な利用のシーンを想定したフレキシブルな施設計画

■ イベント開催と一般利用を同時開催（両立）できるゾーニング計画  
大会・イベント開催時にも選手や関係者、観客とその他の施設を利用する一般利用者の動線が交錯しないよう、それぞれの出入口と滞在・利用スペースを明確に区画することが可能です。



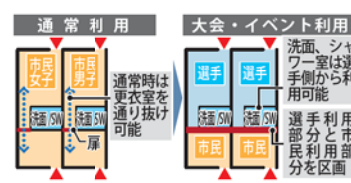
### ■ 分割貸出・利用しやすい運動室

メインアリーナ、サブアリーナ、多目的ルームには、コートと防球ネットの位置に応じた複数の出入口と器具庫扉を設けます。また、各室の空調・照明は、貸出区分ごとに制御可能な計画とします。



### ■ セキュリティ区画できる更衣室

更衣室の中央には、選手利用ゾーンと一般市民利用ゾーンを区画可能な扉を設け、大会時は明確なセキュリティ区画が可能な計画とします。双方向に設けた出入口により、更衣室から各室へスムーズに移動することができます。



### デジタルモニター

時刻、天気、温度湿度、運動の際の注意や催し物、貸出予約、太陽光発電量などの情報を掲示

### 案内・受付カウンター

エントランスに入ってからすぐに目につく位置に設置

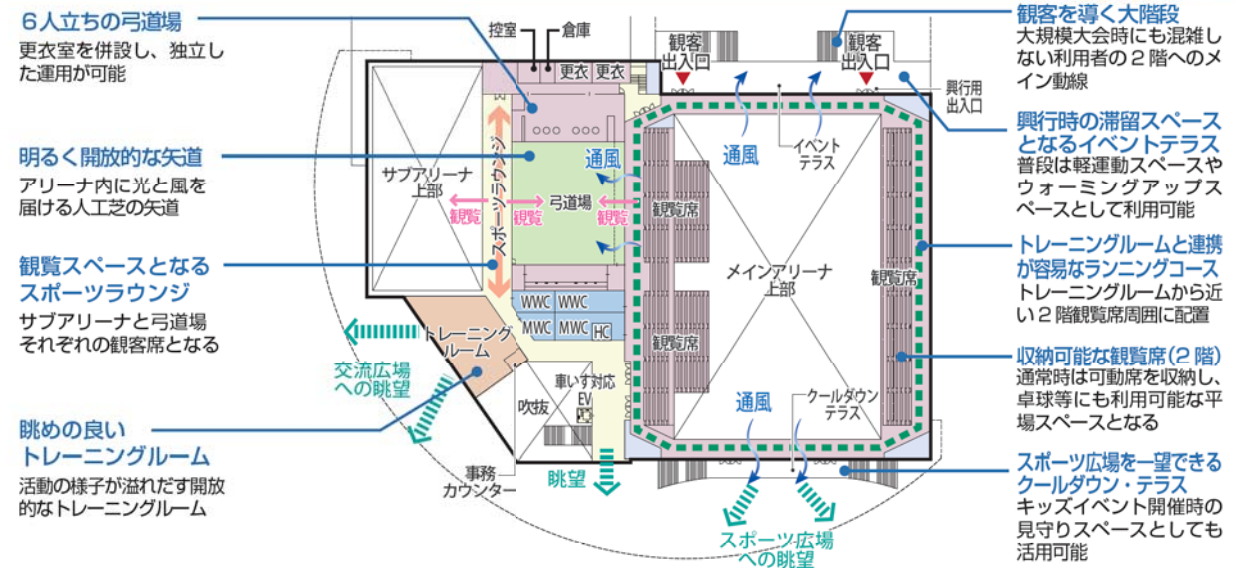


スポーツコリドーイメージ

### メディアウォール

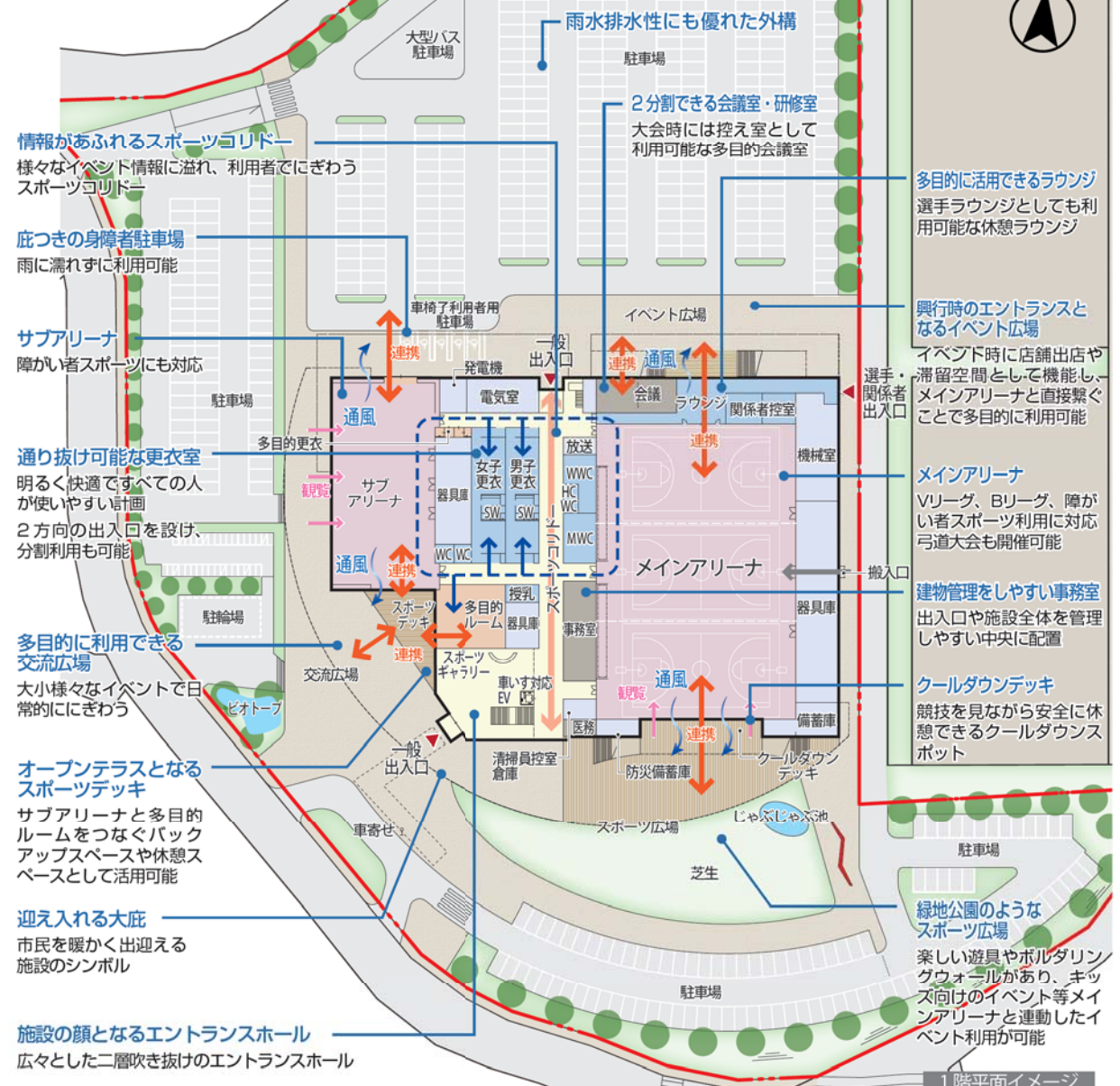
全面掲示板とし、地域のお祭りからスポーツサークルへの参加募集、環境活動の成果報告まで、様々な情報を発信、交換可能

## 03. 多様な楽しみ方、過ごし方ができる豊かな施設空間



2階平面イメージ

【凡例】



1階平面イメージ



# 広場と駐車場の分散配置で、公園全体の利便性を高めるホスピタリティ・アリーナ

## 01. 敷地形状・条件を考慮した効果的な配置計画

### ■公園全体を管理しやすい配置計画

本体建物は、敷地中央に配置します。既存グラウンドやテニスコートを含めた市民運動公園全体が管理しやすい配置計画です。

### ■工事の安全性に配慮した配置計画

本体建物は送電線から十分に隔離した配置とすることで、工事中の安全を確保します。

### ■自然の風が通り抜ける建物配置

運動場側を舗装駐車場とし、北から吹く卓越風による施設内への砂の進入を抑制し、風が抜ける快適なアリーナの内部環境を確保します。

### ■既存擁壁を活かす計画

既存擁壁を避けた位置で本体建物を計画します。既存擁壁による敷地段差を活用することで、造成・残土搬出等の工事コストを抑える環境にも優しい計画とします。さらに、既存擁壁を市民参加のアートイベントを行うアートウォールとして活用します。

### ■安全な歩車分離計画

歩行者と自動車・自動二輪車が交錯しないよう、明確に歩車分離を行い、安全を確保します。

### ■豊かな自然環境と共生する外構計画

緑地に恵まれた豊かな周辺環境を生かし、自然公園としても機能する計画とします。既存樹を活用し、地生の植物を用いて緑陰を形成します。また、児童の自然学習・環境教育に適した在来種保全のためのピオトープや自然観察園、緑のカーテン、花いっぱい推進事業のための市民花壇などを設け、緑を通じたふれあいが生まれる外構計画とします。

### ■安心・安全な雨水・排水計画

土木主任技術者を中心に開発を考慮した外構計画を行います。舗装については、透水性舗装により貯水効果を保つ計画とし、雨水貯留や浸透柵により、ゲリラ豪雨などによる災害を防ぐ計画とします。

### ■様々な活用できる空地計画

本体建物によって隔てられる空地は、3つの広場と4つの駐車場にします。広場と駐車場を分散配置することで、イベントや災害時など様々な状況に応じて多目的に利用可能です。

### ■安全な増築工事が可能な計画

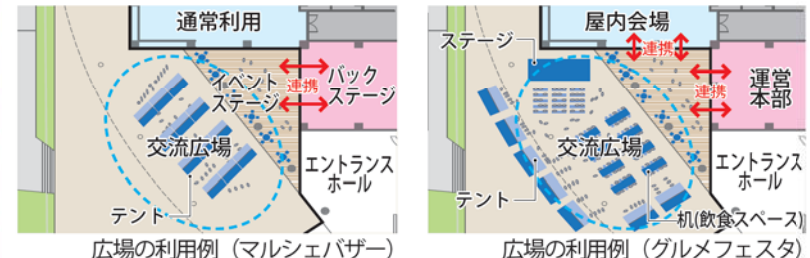
南側の芝生広場には、エントランスホールに接続し、管理運営を統一した新棟を増築することが可能です。増築の工事期間中も工事エリアと本体建物利用エリアが明確に分離可能で利用者に安全な計画です。



## 02. 体育館と連携し、市民運動公園の活用性を高める3つの広場

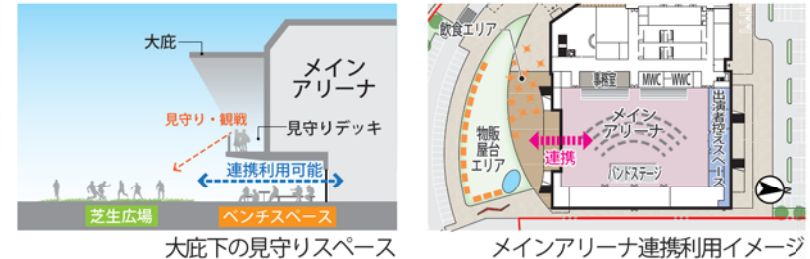
### ■大庇の下に人々が集うエントランスプラザ「交流広場」

施設の顔となるメインエントランスの前に、地域に開かれた交流の場となる「交流広場」を計画します。スポーツデッキを介してサブアリーナ、多目的ルームと連携利用が可能な屋根下空間は、マルシェやバザー、グルメフェスタ等、多彩なイベントの開催に適した多目的広場です。



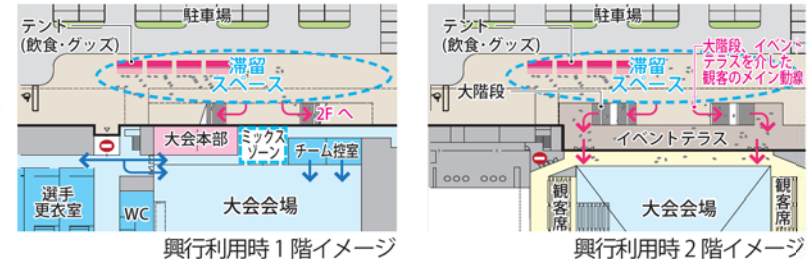
### ■緑地公園のような憩いの場「スポーツ広場」

日当たりの良い敷地南側に、児童公園のような憩いの場「スポーツ広場」を計画します。多目的広場として、メインアリーナと連携利用することも可能であり、1階クールダウンデッキや2階クールダウンテラスが見守りスペースとなるため、幼児向けプログラムなどの開催にも適しています。



### ■大会・イベント開催を盛り上げる「イベント広場」

大規模大会や興行の際に、観客を2階席に直接迎入れる玄関口「イベント広場」を計画します。2階イベントテラスの出入口へつづく、観客滞留スペースやチケット・物販エリアとなるほか、大会本部や選手ラウンジと連携し、メディア待機スペースや記者会見場として活用することができます。



## 03. 利便性と活用性に配慮した効果的な駐車場計画

### ■機能分けを可能にする4つの駐車場

敷地内には第1～第4まで、4つの駐車場を設け、イベントの開催に合わせて、イベント関係者用駐車場とイベント来場者用駐車場、一般利用者用駐車場の明確な分離が可能な計画とします。4つの駐車場合わせて445台、周辺既存駐車場も合わせると500台以上の駐車可能な計画です。

### ■災害時、イベント時のバックアップスペースとして利用可能

災害時には4つの駐車場を使い分けることで、スムーズな機能転換ができる計画とします。市民運動公園の中心に位置する第4駐車場は、運動場やテニスコートを利用したイベントにおいて、バックスペースや荷捌きエリアとして機能します。

